

山口日独協会ニュース

Neuigkeiten der Japanisch-Deutschen
Gesellschaft Yamaguchi

Nr. 1 2 1, Oktober 2015

山口日独協会 〒753-0083 山口市後河原94

Japanisch-Deutsche Gesellschaft Yamaguchi:

Ushirogawara 94, Yamaguchi, 7530083, JAPAN

TEL/FAX : 083-920-2965

<http://www.jdg-yamaguchi.jp/> info@jdg-yamaguchi.jp

協会からのお知らせ

1 ドイツ祭り (Deutsches Fest) のご案内

10月31日(土), 11月1日(日)の両日、10:00~16:00にドイツ祭りを開催します。今年も山口市一の坂川周辺で行われる「アートふる山口」に合わせての開催で、山口日独協会は上原理事長宅で行います。例年10月第1土日に開催されていますが、今年は、他行事の関係で変更となっています。

ドイツの観光等の紹介、ガレージレストランでドイツワイン・ビール・パン・ソーセージ等を提供します。ドイツの観光パンフレット、小冊子等も用意しています。

当日お手伝いいただける方を募集します。皆様のご協力を宜しくお願いします。ガレージ・レストランのお手伝いの内容は、パン・ソーセージセットをお皿に盛る事やお客様の注文聞き、お料理・ワイン等の飲み物の運搬などです。10:00~16:00の間のご都合のつく時間帯で無理のない範囲でのお手伝いをお待ちしています。

お昼には昼食と飲み物飲み放題 (ワイン、コーヒー、ジュース)付きで提供されます。奮ってご参加下さい。詳細、お手伝いのご連絡は上原理事長までお願いします。

アートふる山口全体のチラシを同封しています。チラシの見開き地図9が、山口日独協会の会場です。皆さんもぜひお立ち寄りください。

2 行事のご報告

(1) ドイツ大使講演

8月6日、Dr. フォン・ヴェアテルン駐日ドイツ大使が山口を訪問されました。この機会を利用し、山口市 山口日産自動車(株)ポルシェセンターにて、講演会を開催しました。

「メルケル首相訪日後の日独関係」という演題でしたが、大使のご希望で参加者との対話に時間を割きたいということで、様々な質問が寄せられ、ひとつひとつに丁寧に答えられました。講演録を5ページ以下に掲載しています。

なお、講演会、昼食会、ジャンボリー大会大使ご出席の送迎車について、山口日産自動車株式会社様に大変お世話になりました。誌上をお借りし、感謝申し上げます。

(2) 山口日独協会主催のドイツ・ツアー

7月23日~31日、12名の参加にて実施しました。アンゲリカ・フランツさんの故郷を訪ね、滞在型の贅沢な旅でした。アンゲリカさんには大変なお世話を頂き、ドイツの小都市を堪能しました。アンゲリカさん！有難うございました。

今回から数回にわたり、参加者のドイツ紀行を掲載します。

3 今後の行事予定

(1) 山口ワールドクリスマスマーケット

12月11日（金）17:00～20:00、12（土）11:00～19:00、山口県立大学等主催で、今年第3回となりますが、一の坂川交通交流広場で行われます。山口日独協会も参加し、グリーンワイン、ドイツパン・ソーセージ等を提供します。詳細は、次回会報でお知らせします。

(2) 山口日独協会の毎年の定例行事クリスマス会

12月5日（土）に、会場等詳細は、次回会報でお知らせします。

4 会員の皆さんからの投稿、情報提供

(1) 伊藤敬さんからの投稿です。7月に山口日独協会で開催したドイツ・ツアーの「ドイツ紀行」です。次ページに掲載しています。

(2) 「ピアノ五重奏の夕べ」

日時：10月25日（日）18時30分開演、18時開場

場所：山口市 山口日産自動車(株)ポルシェセンター山口ショールーム

曲目：シューマン：ピアノ五重奏曲変ホ長調 Op. 44 ほか <チラシを同封しています>

(3) 「ブクステフーデのトリオソナタ連続演奏会 Vol. 3」

日時：11月3日（日）14時開演、13時30分開場

場所：山口市山口信愛教会

<チラシを同封しています>

(4) 「変奏曲と歌曲の午後」

日時：11月3日（日）14時開演、13時30分開場

場所：山口市 C.S 赤れんが

<チラシを同封しています>

(5) 「まど・みちおさんの詩と 第九コンサート」

・日時：12月23日（水・祝）14時開演、13時30分開場

・会場：周南市文化会館

・入場料：2,000円（当日券2,500円）、高校生以下無料 <チラシを同封しています>

*お問合せは、各理事か上原理事長へご連絡をお願いします。メールでも結構です

上原（TEL:083-920-2965,090-5269-4941・メール:info@jdg-yamaguchi.jp）

<会費納入のお願い>

会費：法人；10,000円、一般；2,000円、家族；1,000円、学生；1,000円
本年度会費未納の方は、納入をお願いします。

山口銀行の場合、皆さんの通帳からATMを利用されると振込手数料は無料です。

手数料節約のご協力をお願いします。

【会費納入方法】振込先：郵便局、口座番号；01550=9=26140 加入者名；山口日独協会
振込先：山口銀行県庁内支店 口座番号；6171166 加入者名；山口日独協会

ドイツ旅行に参加して

伊藤 敬

山口日独協会に入会して一年目に久しぶりにドイツ旅行をするというお話があり、ドイツ

のことをもっと知りたいと思っていた私にとって、とてもラッキーで喜んで参加することにしました。ドイツに関心をもったのはずいぶん以前になりますが、もともと絵が好きで東山魁夷画伯（故人）の画文集「ドイツ紀行」の中にあの勾配の急な三角形の赤い屋根の建物、お城や教会などの作品が載っており、なんと美しい街なんだろうと感動したのがはじまりです。以前ツアーでドイツに行ったことがあったのですがこうした動機からの感動は得られずただ素通りした感があり、今回の7月23日～8月1日のドイツの旅は出発前からわくわくしたものがありました。まさにそのとおり感激の連続でした。マルクトハイデンフェルドでの一週間の滞在は貴重なものでした。一週間も滞在すると周辺の様子もわかりドイツの空気感のようなものに触れる思いでした。

ホテルの石塀に沿って続く石畳をゆったりと流れる時間の中であちこちに置いてあるオブジェを眺め散策し、メイン川の畔にでる。昼間は暑いのですが湿度がなく、夜は窓を開けたままにしても蚊や虫などが部屋に入ってくないのでエアコンもいらずぐっすり就寝でき、翌朝は教会の鐘とともに目覚め、明るい日差しが差し込むレストランでゆっくりと朝食をとる。この毎日の流れは心地よくあつというまの一週間でした。とても人口15,000人とは思えない街並みはなんでも揃う商店街、こぎれいなレストランや近くにはガーデンレストランがあり地ビールを飲みながら地元の方と歓談したりとドイツの方とのふれあいがあり楽しいものでした。初日にはこのマルクトハイデンフェルドの案内や歴史等の説明を地元ボランティアの方がしてくださりその通訳をエムデ・アンゲリカさんにしていただき、またこれからはじまる日帰りツアーのガイドをして下さるなど大変ありがたいものでした。当市はアンゲリカさんのふるさとでありご自宅を訪問しご健在のご両親、妹さんとの語らいは楽しく、微笑ましいドイツの模範的家庭をみせていただき貴重なはじめての体験でした。日帰りツアーでは二つのワイン畑を訪れ、高台の傾斜地に等間隔に植えられた葡萄の樹は写真集などに紹介されていたとおりで眼下にはメイン川に沿って広がるあの赤い屋根の家々やワインまつりの会場が見え素晴らしい風景でした。ワイン畑には貝殻が混じったりしているカルシュウム、赤い土、カルキの入った土などの土壌や水、太陽の光などの自然条件と多くの手間と労力が必要との説明があった。だからこそあの芳醇な香りとコクが生まれるのだと納得しました。ワインまつりの会場にはよくもこんなに集まったと思えるくらい多くの老若男女がワインと音楽に酔いしれ、生き生きと会話に興じていました。また後日ホテル地下のワインセラーでのホテルオーナーによるテイastingがあり、テーブルの上の燭台にロウソクが灯り典雅な雰囲気の中かでワインブローベをつつきながらワインを口に含む、あまり飲めないわたしも何度口に含んだらうか。



さて次に日帰りツアーですが、最初のバスツアーであるメスペルブルン城は湖の畔にあり、木々に囲まれた森の中にある気品のある小さなお城で、私はふと東山魁夷画伯の「緑響く」の絵の中にある深い森に一頭の白馬がゆっくりと右から左に歩いていく情景が浮かび、この絵を描くときに画伯がモーツァルトのピアノ協奏曲の緩やかなk 488番の第二楽章が聞こえてきたと語っていますが、お城の中からそんなリズムと旋律が聞こえてきそうな気分に入ったメルヘンの世界でした。次に向かったのはドイツで一番古いホテルがあるミルトンブルグ市です。メイン川の真珠と呼ばれている街で、ハーフ・ティンバーの木造軸組みの建物が続き、沿道には三人の若者たちによる笛の演奏、また当日結婚式があり丁度会場から出てきたところで、広場で風船を飛ばし多くの人が祝福する光景は同じだなあと思わずシャッターを切りました。その後小さなハイデルベルクといわれるヴヱアタイム市の古い街並みと城跡を見学。ドイツは至る所に中世のハーフ・ティンバーの建物が見られ美しくまるで絵画の中にいるような気分になります。こうした風景にドイツの風土と自然が溶け合いバッハやベートーベンなどの偉大な作曲家やゲーテなどの詩人が生まれたのではないかと思ったりもしました。翌日はホテルから東方向に進みフォルカッハに行きメイン川の乗船を楽しんだ後フォルカッハ巡礼教会で彫刻家リーメンシュナイダーの作品ローゼンクランツのマリアを見ることができました。教会のファサードも素晴らしいものでした。夕方には山あいのぶどう畑のなかにあり、日本でいえば段々畑にあるビヤードンといっただころでしょうか、カラスの巣という名のレストランでワインとつまみで乾杯。途中アンゲリカさんのご近所のご夫婦と偶然出会い乾杯、打ち解けるうちにドイツの民謡を歌っていただき、我々はさくらさくらを歌ってお返しをするとそれを聞いていたまわりの各テーブルから拍手喝采と楽しい一時でした。なかなか体験出来ない素朴な田舎のドイツの一面に出会い嬉しい思いがしました。いよいよ最後のバスツアーフランケン地方の中心都市ヴェルツブルクへ。この街は司教が領主で発展し、教会が多い。聖キリアン大聖堂、マリエカペレなど。メイン川にかかる12の聖人像が欄干に並ぶアルテ・メイン橋を渡り丘の上にする。丘の上のケベレ教会から眺めた市内の光景は息をのむほど美しい街並みでした。午後からは世界遺産大司教の宮殿レジデンツを見学。内部は世界一といわれる一枚天井画、金と鏡で装飾された鏡の間など24年の歳月をかけて建てられたバロック建築で素晴らしいものでした。翌朝一週間過ごした名残惜しいマルクトハイデンフェルドを後にし、フランクフルトに向かいました。フランクフルトは一日の滞在でありましたがさすがにドイツの主要都市であり活気に満ちておりました。人口67万人でドイツ5番目ですがドイツの経済、金融の中心地であり、EU加盟国のけん引役ドイツの一翼を担っていると思えました。またゲーテ生誕地で市内には「ゲーテの家」があります。市内の雰囲気を感じながら散策し、シュテーデル美術館に行き、なかなか見ることが出来ないルノワール、マチス、フェルメールなどの名画に出会うことができました。わずか8日間の旅でしたが人、物、風景など密度が濃くドイツの心に触れた気持ちがしました。これをきっかけに、ドイツについてももっともっと学習したいと思っている次第です。丁度古希を迎える私にとって記念すべき旅行となりました。

最後になりましたがエムデ・アンゲリカさんの長期間にわたる献身的な案内ときめ細やかな紹介に心から感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。また上原ご夫妻におかれましてはこの旅行の企画をはじめ旅行中の様々な配慮とサポートをいただき心から感謝しお礼申し上げます。

同行の方たちも素晴らし方ばかりで、サポートもいただき楽しいドイツ旅行となりました。ありがとうございました。

Dr.ハンス・カール・フォン・ヴェテルン駐日ドイツ連邦共和国大使講演会 講演録

日時 2015年8月6日(木) 13時25分～14時00分

会場 山口市 山口日産自動車(株) ポルシェセンター2階

演題 メルケル首相訪日後の日独関係

講師 Dr. ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン 駐日ドイツ連邦共和国大使

通訳 ベアーテ・フォン・デア・オステン 通訳・翻訳部長(在日ドイツ連邦共和国公館)

<講演>

エムデ会長、上原副会長、末富親子、山口日独協会の会員の方々、温かく歓迎していただきありがとうございます。私が今日、みなさまの前でお話できることを、非常にうれしく思います。プログラムによりますと、まず私が講演をし、その後に質疑応答ということとなっておりますが、できるだけ私の話は短くして、むしろみなさまとの質疑応答の時間を長く取りたいと思います。その際の質問は、何でも結構ですので、私の講演の内容とは全く関係なくても構いませんし、エムデ会長がおっしゃったように、山口にドイツ大使が来るということが滅多にないということですので、例えば大使の仕事について聞いてみたいことなど、何でも結構です。

特に今日は、山口という地で講演できることをうれしく思います。山口は小さな県ではありますが、特徴ある豊かな文化や歴史をもっているということ、移動の車中で色々教えてもらいました。東京のことばかりを見るのではなく、日本の地方について見ていく機会というものは、大使としての私にとって非常に興味深いことです。

日本とドイツは地理的にはとても離れています。私は何回もドイツに帰りますが、飛行機の旅は12時間から14時間はかかりますし、本当に疲れる長旅です。しかし他方では共通点も多くあります。ひとつは、日本とドイツは同じような課題を突きつけられているということがあります。またその課題に対して、日本とドイツがそれぞれ生み出した答えは、多くの場合違うということもみられます。私はそれは良いことだと思います。というのは、その課題は同じだったとしても答えが違うということは、お互いに学び合う材料となるからです。片方が誤っていたりした場合には、間違いを繰り返さないよう、良いところからだけ学んで、それを自らの状況に適用させていくことが大事です。

私が8月6日に山口にいるということは、偶然ではありません。もちろんみなさまご存知のとおり、私は今朝、戦後70年目の広島平和記念式典に参加しました。また日曜日には、長崎の平和記念式典に参加します。この2015年という年は、日本とドイツにとって、戦後70年という記念すべき年であり、両国は先の大戦という恐ろしい戦争を体験した国であるということ、また両国は敗戦国でもあり、両国はこの恐ろしい戦争から教訓を得ています。

昨年の式典でもそうでしたが、今朝の式典においても、原爆が投下されて70年となりましたが、ますます少なくなる被爆生存者の方々が、若い世代へその思いを伝えていくという機会がありました。つまり過去に何があったか、いかにしてどのような経緯で戦争へと至ったのか、そして戦争がどんなに恐ろしいことであるか、その経験を次世代に伝えていくことが、被爆生存者にとって重要なことだと考えます。今日のこちらの会場も若い方々

が多く、そしてドイツに興味を持ってくださっているということは、ドイツ大使としてうれしい限りです。

ドイツで一般的に伝えられているところでは、我々の世代でもそうですし、若い人たちにおいてももちろんですが、前世紀に起こったことを絶対に忘れてはいけないということです。それを伝えていくには、自分の国や、自分の地域、自分の家族が苦しんだということ伝えるだけでなく、自分の国によって他の国に与えた痛みがある、ということも忘れてはなりません。それが記憶の大事な部分であり、そして犠牲者としての視点を忘れては、記憶としては不十分です。双方の視点が重要であり、その両方を伝えていかなければなりません。

しかしもちろん、過去に目を向けるだけではなく、未来にも目を向けなければなりません。そしてその未来を見る上でどのような課題があるか、ということも考えることも重要です。

例えばエネルギー問題、いかに安全にエネルギー供給を確保していくかということ、またどのようにエネルギーを生産し、消費していくか、ということも日独間の対話のテーマでもあります。

また、我々両国においても高齢化が進んでおり、人口減少が著しい傾向が見られます。しかも日本とドイツは、これだけ早い人口減少が見られるのは、世界の他の国々の類を見ないものです。

あるいは国際政治に目を向けますと、例えば国際的な対立や危機、隣国との関係といったこともテーマのひとつとなっています。例えば、日本にとってもドイツにとっても、ロシアに対して問題がたくさん存在しているが、非常に興味深い関係もあります。

こういったことは、全て日独間の対話で非常に重要な部分ではありますが、私が非常にうれしく思うのが、これが政治家レベルだけで議論されているのではなく、いわば民間レベル、市民社会においても、またとりわけ日独協会会員が代表的ですが、みなさんの間においても話題として取り上げられるということです。

私の話はここまでとして、むしろみなさまからの質問を楽しみにしておりますので、質疑応答を通して、みなさまと意見交換をしたいと思います。

<質疑応答>

質問：私は今悩んでいます、それは子育てのことです。男の子が2人います。先ほど少子化という話もありましたが「子は宝」と申します。厳しく育てたいとも思いますし、優しく育てたいとも思います。ドイツの方は、非常に勤勉であったり論理的だというイメージがありますが、小さい子供に対する教育というのは、一般的にはどのようにされているのか、大使の個人的なお考えでも結構ですので、教えていただきたいと思います。

大使：こういった質問に私が答えるのが適任かどうかわかりませんが、これはむしろ妻が答えるのがよいかと思います。（会場笑い声）もし変な答えをすれば、妻から訂正が入ります。（会場笑い声）

それはさておき、非常によい質問だと思います。私は3人の子供がいて、3人とも娘でみんな大きくなっていますが、小さいうちにはおっしゃるように、厳しく育てつつも自由をできるだけ与える、ということで結構悩んでいました。

日本とドイツは共に少子化という時代を迎えているので、やはり子供が少なくなればなるにつれて、親にとって一人一人の子供の存在がますます宝となっていく、大事になっていくということは、子供も甘える傾向にあると思います。私たちにとっても問題だと思うんですが、しつけをするというのは大事だと思います。例えば中国を見れば、特に一人っ子政策の時代を見れば、小さな王様ばかり、何をやってもいいとか、全然厳しくしつけされていないとか、そういうことがよく見られます。

私たちは、自分の子供の教育について最も大事にしているのは、見本を見せるということ、つまりどう生きるべきか、何をしてはいけないか、そういう実例をみせながら、子供がそれを真似するようになればいいと望んでいました。もちろん子供というのは、自分のパーソナリティを育てないといけないので、親が言ったから反対のことをするとか、それは子供の務めとしてあります。けれども、親として最も重要なことは、良い例を見せるということ、そこから子供が摘み取って、自分の人生に組み込んでいく、そういう風に期待していました。しかし職業選択になりますと、子供は3人とも外交官にならないで、3人とも別の仕事になりましたが、それはそれでいいです。

質問：移民問題についてお尋ねしたいと思います。ヨーロッパは陸続きですので、昔からヨーロッパ系の移民はたくさんいて、昔から何らかの問題はあったともいますが、近年ではドイツではトルコ系の移民が増えておると思いますし、フランスではアフリカ系の移民が増えていると思いますので、文化的な摩擦も起こっているのではないかと思います。日本では高齢化が進み、少子化で労働力が減少していくと考えられますので、これから先移民を受け入れて労働力を増やした方がよいのではないかと、という議論も起きています。移民を受け入れるに当たって、実際に起こってくる問題として自分の国のアイデンティティーを保つためにはどうしたらいいのかということもありますし、移民の方たちと仲良くやっていくいい方法など何かありましたら、既に移民をたくさん受け入れてらっしゃる国の立場で何か聞かせていただけたらと思います。

大使：非常に興味深い質問です。まず個人的な視点で言いますと、我が家は異なる文化圏で成り立っておりまして、私の妻は、30年前にベトナムで知り合いましたが、イギリス人ということもあり、家庭内でも言語が違う、文化的背景が違う、ということがあります。わたしにとってそれは、むしろ生活がより豊かになるというふうに捉えています。

今、日本で繰り返られている移民問題の議論というのは、ドイツで20年前や30年前になされた議論にそっくりだと思います。当時のドイツでは移民どころではないというように言われ、異国から来た人々をいかにして統合できるだろうか、それは不可能だと、保守政権のもとで結論づけられました。しかし今は逆になり、そうした主張は少数派となりました。ドイツは移民国家となり、移民を必要とする国でもあります。一つの理由としては少子化対策ということもありますが、逆にドイツ文化をより豊かにするためには、移民が必要だという結論に変わりました。

しかし、もちろん外国人を受け入れるにあたって、ドイツにとって問題が無いわけではありません。ただ面白いのは、ドイツで移民や外国人が少ない地域を見ますと、そういう場所に限って、人々が移民や外国人に対する不安を最も抱いており、懐疑的な態度を示しています。逆に移民や外国人が多いところ、例えばベルリンでは、ほとんどそういった問題がありません。

つまりドイツは経済的にも社会的にも移民国家であって、移民を必要とするということです。理想の移民は、年齢が若くて、教育水準が高くて、職業訓練もしっかりしているという人なのですが、北アフリカやシリアといった困窮に陥っている人たちにも手を差し伸べて、助けたいという気持ちもあります。できるだけこういった人たちにより教育を与えて、彼らが自分の社会・自分の国に帰って、そこで活躍できるようになってもらえたらとも考えます。

時間の制約がありまして、これから知事への表敬訪問がありますので、ここはそろそろ終わりにしたいと思います。しかし、みなさまがこんな暑い日に足を運んでくださり、本当に感謝しています。議論というような議論にはならなかったかもしれませんが、そのきっかけにはなったと思いますので、近いうちにぜひ私の方から山口県に出向いて、みなさまとスタートした関係を続けていきたいと考えています。

ありがとうございました。（日本語）

